広島ユネスコ協会

ヒロシマ ユネスコ

https://www.unesco.or.jp/hiroshima/

わたしの平和宣言

○すべての人の生命を大切にします
○どんな暴力も許しません
○思いやりの心を持ち、助け合います
○相手の立場に立って考えます
○かけがえのない地球環境を守ります
○みんなで力を合わせます

（「わたしの平和宣言」は、ノーベル平和賞受賞者たちが起草した6項目の誓い）

広島ユネスコ協会が韓国ユネスコ大邱協会を訪問

2024・10・11～14

世界遺産・伽耶古墳群や日本家屋通り、ポスコ鉄工所

日韓共通の歴史をもつ地を共に訪れ友好を深める！

ユネスコ大邱協会との交流も、今年で25年を迎える。「分断の世界」という言葉を耳にするが、分断をくい止め溝を埋めるには市民レベル交流の果たす役割は大きい。

8名の訪問団は10月11日、伽耶古墳群を訪れた。3～6世紀に繁栄した伽耶は倭の国とも盛んに交流を行い、鉄の加工やかまどによる調理法など、新しい技術を伝えたことが福岡県の朝倉古墳から分かっている。12日は1968年、日本の資金支援と技術供与により設立され、今や最先端技術を持つポスコ鉄工所を訪れた。

伽耶古墳群

九龍浦・日本家屋通り

九龍浦にある「日本家屋通り」は、香川県の貧しい漁師が最初に住みつき、戦前には1100名あまりの日本人が生活していた。終戦時、身のまわりのものだけを持って帰国し、その家屋を浦項市が修繕し観光に活用している。

当時帰国した日本人の想い、神社の碑の日本語を削り取った韓国人の想いを、今は共に感じとることができた。

今回は日韓の歴史を共に学ぶことで奥深い交流ができた。

（訪問団団長　政木恵美子）

終戦記念日の8月15日に、広島平和記念公園で『平和の鐘を鳴らそう2024』を開催した。

広大附属高等学校ユネスコ班内田礼夢さんは、「忘れてはいけない記憶と記録があり、平和を得られている今につながってきた過去に思いを馳せ、その歴史を承継していく意志を持っていくべきである」と、山代夏葵さんは「私は今日は、原子爆弾で命を失った人々や愛する人を亡くした喪失に今もなお苦しんでいる人々のことを深く心に思い、平和の鐘を鳴らす」とスピーチ。

『平和の鐘を鳴らそう2024』

高校生平和大使で基町高等学校の甲斐なつきさんは、「被爆者の方々の思いを世界に末長く伝えていき、核兵器も戦争もない誰かに傷つけられない平和な世界が訪れるまで平和活動を続ける」と訴えた。

（平和・世界遺産部会　内田一士）

『高校生国際理解セミナー』～未来への継承と変革～

日時：12月22日（日）10：00～12：30
会場：広島市青少年センター
基調講演
元広島平和文化センター理事長
スティーブ・リーパー氏
ZOOMで講演参加
対象：15歳～18歳の高校生相当年齢の人
定員：30名
参加費：無料
日本被団協（日本原水爆被害者団体協議会）のノーベル平和賞受賞が世界の紛争・戦争の流れを変えることを願って

（青少年育成部会）

11・24『国際フェスタ』

国際・市民交流を進めるボランティアグループが集う『国際フェスタ』が、国際会議場と周辺の緑樹帯で開かれ、広島ユ協も写真展示などで参加し、訪れた市民に大邱交流や平和の鐘の事業などを紹介しました。

（国際部会）

編集・発行／広島ユネスコ協会　広島市中区袋町６番３６号　広島市まちづくり市民交流プラザ（メールボックス８９号気付）

『世界にヒロシマを伝えて40年』

～第186回広島ユネスコ講演会（ユネスコサロン）～

講師　小倉桂子さん

小倉桂子さんは42歳の時にご主人を突然亡くされ、その後通訳者となり40年間、被爆証言を世界に発信してこられた。中でもG7広島サミット2023で各国首脳やウクライナのゼレンスキー大統領に証言されたことは記憶に新しい。

小倉さんは8歳の時、広島市牛田町で被爆。当時の様子を、基町高校の生徒が被爆者と共同制作した「原爆の絵」や、写真、地図などを用いて説明された。

被爆者には「言えないことがある」という。それは瓦礫となった建物の下敷きになり「助けて」と叫んでいる家族を、まだ生きていると分かっていながら、見捨てて自分だけが逃げた体験だという。

小倉さんはアメリカでも証言を重ねてこられた。退役軍人に「congratulations!」（おめでとう）と迎えられたことがあったそうだ。「原爆を落とさなければ日本人は集団自決していた。原爆によって戦争が終わり、君は生き延びることが出来た。ラッキーだったね」という見解らしい。

こうした相違にもへこたれず証言を続けられた小倉さん。その岩を穿（うが）つような努力が実を結び、今年アイダホ大学から名誉博士号を授与された。そのご縁で被爆証言がイタリア語にも翻訳されたそう。欧州の人にも伝わっていくと目を輝かせる。

お話は流れるように続き、まだまだお聞きしたいことがいっぱいでした。ありがとうございました。

（文化部会　大村直生　写真・木舩裕美）

【おぐら・けいこ】広島市生まれ。8歳の時被爆。平和のためのヒロシマ通訳者グループ代表。夫・小倉馨氏（故人）は、元広島平和記念資料館長。

☆ウクライナ・パレスチナ留学生と一緒に学ぶ『世界のこと』講座

10月20日開催の、留学生と一緒に学ぶ『世界のこと』講座では、広島にやってきた留学生4名を迎えて、パレスチナ留学生から紛争の歴史や文化などについて、またウクライナ留学生からは、ロシア侵攻下の窮状について話を聞きました。その後、意見交換、発表会も持ちました。

☆『英語でガイド in ひろしま』

7月27、28の両日講座を開催。初日は平和公園を英語で案内するための事前学習を行い、翌日、グループに分かれて公園の慰霊碑や記念碑を回り、ガイドに立ちました。

参加した高校生たちは、初めての現場研修でもあり、貴重な体験になったようです。

（青少年育成部会　横佩智恵）

「50周年記念誌の有効活用を願って」

3月に発刊した「広島ユネスコ協会50周年記念誌」は、次代を担う若い世代に大きな期待を寄せるといった趣旨でも編集を行っており、「挨拶」「祝辞」よりも前に、活動奨励賞受賞の高等学校2校の生徒たちの受賞後の活動状況や活動への考え方などを、載せさせていただいています。

7月には、この冊子の有効活用を願って、市内の中・高等学校に1冊ずつ配付しました。「先生方に読んでいただくとともに、生徒も手に取って一読できるよう図書室に配架を」とお願いしています。

ユネスコ憲章の理念に沿って世界平和につながる活動に興味・関心を示す若者が、この広島から数多く育っていくことを心から願っています。

（副会長・教育部会担当　湯浅克廣）

『中国ブロック・活動研究会』

9月21日（土）に開かれた、『中国ブロック・ユネスコ活動研究会in東広島』には、広島ユネスコ協会からは10名が参加。開会式の後、「中国ブロックESD活動顕彰」（6つの団体・学校）、活動報告があり、「平和・国際貢献・地域とユネスコ活動のこれまでとこれから―広島県の5つの地域ユネスコ協会の取り組みから―」には、広島、宮島、東広島、尾道、因島5協会の活動が紹介されました。

地域性や若者参加、持続性が大切だと実感しました。

（広報部会　藤川和康）

ぺあせろべ

10月6日（日）10：00～16：00に護国神社前広場で行われた国際交流フェスティバル『ぺあせろべ2024』に参加しました。

「子どもの広場」を担当し、参加者に折り紙とバルーンアートの体験をしていただきました。子どもから大人、特に外国人の方の参加が多かったです。日本文化に触れ、とても楽しんでいました。いい国際交流になりました。

（国際部会　政木）